

令和7年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

スクールミッション	西村山地域で唯一の工業教育を担う高等学校として、ものづくり教育や資格取得、地元企業と連携したキャリア教育を推進することにより、社会を生きぬく基盤となる力を育むとともに、郷土を愛し地域産業界や社会を担うことのできる、健康で実践力のある人材を育成します。
-----------	---

グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)	<ol style="list-style-type: none"> 1 何事にも前向きに挑戦する姿勢と、状況を正しく理解・判断し行動できる力を育成します。 2 仕事を知り、学び、探究し、自らキャリアプランを作り上げる力を育成します。 3 人間の多様性を理解した上で、自分の考えを適切に伝える対話する力を育成します。 4 地域課題の発見や解決に向け主体的に考え、地域のために行動できる力を育成します。 5 心身を健康に保ち、自ら課題の発見と解決に努め、やり遂げる力を育成します。
カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ものづくりのための知識・技術が身に付き、技能習得の意義や利点がわかる授業を実践します。 2 地元企業と連携し、地域を題材にした探究学習やインターンシップを展開します。 3 協働学習を進める中で他者を理解するとともに自分の考えを発表する機会を作り、対話する力を向上させる授業を実践します。 4 地域の理解を深めるため、公開講座の実施やみこし祭りへの参加など地域における活躍の場を作ります。 5 やり遂げる力の育成と健康の増進のため、特別活動や保健に関する指導を活性化します。
アドミッションポリシー (入学者の受入れに関する方針)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ものづくりに興味・関心があり、専門的な知識や技術を身に付けたい生徒を募集します。 2 工業分野で活躍できるエンジニアへとキャリアアップしたい生徒を募集します。 3 対話の重要性を理解し、状況に応じた挨拶や対話ができるようになりたい生徒を募集します。 4 地域の祭りやボランティア活動に参加するなど、地域とのつながりを大切にしたい生徒を募集します。 5 心身を健康に保ち、熱心かつ継続的に活動に取り組みきたい生徒を募集します。

学校経営の方針	
<p>県教育委員会が掲げる、「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」とスクール・ミッションの実現を通して、特色ある魅力的な学校づくりを推進する。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 多様な人々との交流や対話を通して、社会に貢献できる資質と思いやりの精神、しなやかな感性を持つ生徒の育成を図る。 2 授業研究やICTの活用を一層推進し、生徒一人一人にとって「わかる授業」を展開する。また、ものづくりや資格取得、各種コンテストなどに積極的に取り組み、生徒の学習自立的な学習態度の育成を図る。 3 開かれた学校づくりを目指し、地域社会・PTA・同窓会・後援会等との連携を密にし、地域に根ざした教育活動の一層の推進を図る。 4 全職員が教育公務員としての使命を自覚し、協働して組織的な教育活動を推進することにより、グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの更なる充実を図る。 	

経営の重点	令和7年度	1 地域と連携した工業教育の充実と学校の魅力発信
		2 生徒指導・進路指導の更なる充実
		3 公務の活性化と働き方改革の両立
		4 危機管理の徹底

達成度	A 達成
	B 概ね達成
	C やや不十分
	D 不十分

自己評価

番号	評価項目	具体的方策（令和7年度）	主な数値目標	達成度	今年度の成果と課題 次年度に向けた課題と改善策など
1	学校運営	(1)「スクール・ミッション・スクールポリシー」の実現に向けて、全職員・全生徒の共通理解の下、協働実践による明るく生き生きとした教育活動の実現を目指す。 (2)開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域の連携を深める。 (3)教職員一人ひとりが自己研鑽に励み、教員力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回はHP更新し、本校の情報を広く発信する。 ・PTA関連の各種会議では、出席率60%以上を目指す。 ・避難訓練を年2回実施し、危機意識を高める。 ・教員の50%が校外の研修会に参加し、自己研鑽に励み、教員力向上に努める。 	B	令和7年4月に開催した今年度のPTA総会の参加率は27.2%(昨年度34.5%)と昨年よりは参加率は昨年よりも7%ほど低くなった状況である。授業参観等と抱き合わせて出席率を上げていきたい。HPの更新を適宜行ったが、もっと多くの情報を掲載し更新していきたい。授業研究週間では多くの先生が見学をし、研修・研究をおこなった。外部での研修会は昨年よりはリアルでの開催が増えたが、リモートでの研修会が多かった。1人1台タブレットが生徒と教員に支給となり授業等で多く使用されるようになった。
2	学習指導	(1)効果的にICTを活用し生徒を惹きつける「わかる授業」を展開し、生徒に「授業が第一である」(授業中心主義)ことを理解させる。 (2)授業時数を確保し、知識の定着を図る。また、学習の習慣づけにより基礎学力の向上を図り、探究的な学習の機会を創出し主体的に学習する習慣を醸成する。 (3)生徒による「到達度自己評価と授業評価」を実施し、その結果を分析し授業改善に役立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間出席率99%以上 ・生徒の授業満足度3.1以上 ・入学定員充足率100% 	B	コロナ禍以降、減少傾向ではあるが風邪症状での欠席が多く昨年度に続き各学年目標値を下回った。生徒の授業満足度はICTの活用とともにわかりやすい授業の研究・実践に伴って、3.46(最大値3.86)と目標値を超え良好であった。昨年度の志願者延べ数84名に対し、今年度は69名と下回った。次年度以降も中学生とその保護者等に対する積極的なPR活動が必要である。
3	生徒指導	(1) 生徒一人ひとりの規範意識と社会性を高め、家庭・地域及び関係機関との連携を密にして、いじめや問題行動、SNSでのトラブルの未然防止、早期発見、早期対応に努める。 (2) 生徒会常任委員の自主活動及び各種委員会活動の充実、また地域社会参加活動の充実を図る。部活動の加入促進と活動の活性化を促す。 (3)交通安全指導を通して自らの安全と健康管理に努め命の大切さについて学ばせる。交通安全指導の徹底を図り、交通道徳や交通法規を厳守させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動「0」・盗難「0」をめざす。 ・いじめ「0」を目指し、認知した場合は100%解決する。 ・各生徒会活動出席参加率100%を目指す。 ・交通重大事故発生件数「0」を目指す。 ・自転車通学者のヘルメット着用率50%を目指す。 	B	トラブルや問題行動については「0」の達成はならなかった。次善策として生徒からの聞き取りや指導を、可及的速やかに、組織的に行った。いじめ解消のために保護者との連絡をとり、生徒・家庭に寄り添う姿勢を維持した。 部活動については任意加入制の中で約80%の生徒が何らかの部に加入している。体育祭や寒工祭等の生徒会行事、「若草のみち植栽活動」や「寒河江神輿の祭典」等の地域関連行事では、主体的・意欲的に取り組む生徒の姿が見られた。 交通安全に関して、自転車運転時のヘルメット着用率がなかなか上がらない状況がある(約15%)。今後全体的に推進活動が加速する予定なので、その波に乗って指導したい。
4	進路指導	(1) 進路希望を高く持って、それを達成できる人材を育成する。 (2) キャリア教育総合実践プログラムに基づき、計画的、組織的、継続的なキャリア教育の充実を図る。 (3) ICTを活用し、進路情報の発信や諸調査等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路達成100%を目指す。 ・民間就職と進学(1回目受験)での合格率は、それぞれ90%以上を目指す。 	B	1月末現在での希望進路達成状況は99%であり、生徒自身の努力と全職員による指導の結果である。民間就職での第一希望の合格率は86%、進学での第一志望の合格率は91%となり、就職に関して今年度の数値目標を達成することができなかった。また、今年度も山形大学への合格を達成することができた。次年度は、今年度の反省を踏まえ目標を達成できるように指導の充実と努める。
5	地域と連携した工業教育	(1) ものづくり教育の質を高めるとともに、時代のニーズに対応し、地域社会の発展に寄与できる工業教育を展開する。 (2) 課題研究や産学官連携による取組を充実させ、主体的に課題を解決し、表現力と創造力に富んだ人材の育成を図る。 (3) 資格取得への挑戦を促し、知識・技術の習得を通して自己肯定感を高め、生涯にわたって学び実践する力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種資格取得に積極的に取り組み、技能検定では受検者の合格率70%以上を目標とする。 ・ジュニアマイスター顕彰に向けた取り組みを強化し、受賞率30%以上の達成を目指す。 ・各種コンテストやロボット競技大会等に参加し、上位入賞を目指して技能と創造力の向上を図る。 ・課題研究においては、生徒の多様な関心に対応した複数テーマを各学科で設定し、探究的な学びを促進する。また、研究成果を発表会を通じて保護者・企業・地域の方々に広く発信する。 ・公開講座等を通じて、地域と連携した取り組みを各学科で年1回以上実施し、専門教育の魅力を地域に積極的にPRする。 	B	様々な資格取得に意欲的に挑戦している。難関資格取得者も増加しており、技能検定は前期合格率73%、後期は74名が受験済である。 ・マイコンカーラリー、全国高等学校ロボット競技大会で全国大会へ出場を果たし、ロボットアイデア甲子園東北大会出場など各種コンテストでも顕著な活躍がみられ、優秀な成績を収めた。 ・課題研究発表会では、新しい施設設備を活用した内容の発表が多くあった。また、本校を会場として左沢高校とのキャンパス制合同発表会を開催することができた。 ・各学科にて、寒河江少年少女発明クラブの体験教室、クラッピンサガ工でのミニ四駆教室、寒河江市商工会主催のふるさとクリエイトへの出展や醍醐小学校、橋岡特別支援学校寒河江校でのものづくり教室など、地域に根ざした活動を実施することができた。
6	危機管理	(1) 防災意識の徹底、不審者への対応及び学校情報管理の理解と徹底を図る。 (2) 生徒及び教職員の心身の健康管理に努める。 (3) 公金等各種会計処理を適正に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を年2回実施し、危機意識を高める。 ・救急対応に関する講習会として、2分野以上の企画をめざす。 ・心身の健康に関する講習会として、2分野以上の企画をめざす。 ・公金等執行状況報告に合わせ会計指導を実施する。 	A	5月には、大規模地震後火災を想定し防災避難訓練を行い、10月には弾道ミサイルを想定した避難訓練を行った。全校生徒を対象に、AEDの講習会や思春期セミナーを行った。会計処理については適正に行った。来年度についてはできるだけ現金を扱わないように予定している。
7	キャンパス制	(1) 相互連携・交流の意義を踏まえて、キャンパス制の取組み内容について研究する。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の成果を相互で発表することで、両校の理解を深める。 ・生徒会など生徒同士の交流を年2回以上行い、交流を深める。 ・協働的で深い学びをテーマに、研修会を行い、教員の授業力向上を図る。 	B	前年度よりも内容を精選しての実施となったが、各事業は相互理解・交流・協働の観点からすると実りの多いものになった。特に合同発表会では、互いに長期間かけて仕上げた研究・探究の成果を披露し合い、それぞれの内容が充実していたことも相まって、多くの共感や感心・関心が生まれた。

学校関係者評価	
意見・要望・評価等	
<p>・入学定員充足率の目標については、御校固有の問題だけではなく対象学生の人口減少といった外部要因の影響も大きいと、人口減少の影響を除外した目標値の方が望ましいのではと感じた。</p> <p>・課題研究において地域課題や企業課題へのチャレンジを含め、外部機関との連携をさらに進めていくことを期待しています。生徒の実学的な経験の機会を増やすことで、社会におけるテクノロジーの必要性を実感できるようになるのではないかと思います。</p> <p>・インターンシップ事業について、学校運営上の課題もあると思いますが、できるだけ商工会で実施するインターンシップ事業にも参加していきたい。</p> <p>・寒河江工業団地の会社ともしっかりと交流があればよいと思う。</p>	

自己評価及び学校関係者評価の改善点、他 アンケートに回答いただいたところ、今年度の学校運営に関して高評価をいただいた。来年度の入学者が過去最低の人数となってしまったことは残念であるが、進路先や資格取得の更なる充実を図り、本校のPRをおこなってきたい。本年度より学校評議員と学校評価委員とフューチャープロジェクトの外部メンバーが同じになり、同日に会議をすることで会議時間が長くなってしまふ。来年度のに向けて会議の時間短縮を行う必要がある。